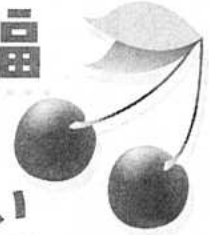


幸福の赤いサクランボ



今年のサクランボの出荷は8月20日にすべて終了した。4月初旬に霜が降りて、開花を控えた花芽が凍ってしまい、着果数が減るということはあった。しかし、その後はまれに見る好天に恵まれ、すべての品種で、品質は最良の状態です。仕上がった。

注文の受け付けを始めた5月初旬から、多くのお客様から、変動が大きい今年の気象条件を心配して「サクランボに悪い影響を及ぼさないですか」といったお問い合わせをいただきました。

その際は「品質についてはまったく問題はありますが、出せる

霜害のリスク乗り越え

数は少なくなるかもしれませんが、早めにご注文ください」と答えて



いた。そのような受け答えをしながら、サクランボにかける想いは、作り手の私たち以上に、購入してくださるお客様の方が大きいのではないかと、思うことがしばしばあった。

私が就農した頃、周囲の農家の方々などから「サクランボ作りはばくちのようなものだ」といった話を聞かされた。もともとデリケートな作物で、樹木自体が病害虫にむしばまれやすい。少し気を抜くと、枯れてしまうこともしばしば起こる。

最も大きなリスクは、今年見られたような発芽期から開花期ま

この時期は病気を予防するため薬剤を散布する作業が行われる。山辺町の多田農園

多田耕太郎 1954年山辺町生まれ。金山町のスリッパ工場を経て、41歳で就農。2009年に法人化し、2・1畝のサクランボ園を経営する。

での降霜による花芽の枯死被害だ。

霜害を回避するため、3月末から4月下旬までの1カ月間は、毎日、天気予報と夜間の外気温に、神経質なくらい気を使う。気温が零度以下に下がって、霜が降りることが予想されれば、サクランボの木を周囲で火をたく準備をして、一晩で十数万円分の灯油を燃焼させる。

たくさんさんのリスクや難問を抱えるサクランボ栽培だが、一つひとつの課題を解決しながらより良い品質のサクランボを作り、お客様の想いに添っていくことが、私の生きがいだと考えている。